幼児期からの運動遊び普及事業　取組結果

奈良県

取組の実施概要

【事業目的】

○主 目 的 ：幼児期からの運動習慣の形成、保護者の意識変容

○検証事項：中学校部活動の地域展開を見据えて、「地域のスポーツは地域で行う」という意識を醸成するツールとして、総合型地域スポーツクラブと教育・保育施設が普段から協働できる体制の構築

【ターゲット】

R4年度：総合型地域スポーツクラブを実施主体に運動に興味を持っている子ども

R5年度：教育・保育施設(幼稚園、保育所、こども園)に通う子ども

R6年度：教育・保育施設に通う子どもに総合型地域スポーツクラブがアプローチ(複合型)

【実施概要】

①「指導者・保護者のための子どもをはぐくむ運動講座」の開催

県内教育・保育施設指導者等**24名**が受講

②「イオンモールで親子スポーツ体験会！」の実施

当日商業施設を訪れた親子連れ等**146名**が体験

③教育・保育施設での運動の習慣化を目指した定期運動プログラムの実施

県内**５市町・５クラブ・14教育・保育施設**

（五條市、御所市、生駒市、葛城市、平群町）

プログラム実施数のべ57回・のべ2,168名が参加

(保護者参加含む)

【協力クラブ ＆ 教育・保育施設】

・(一社)五條スポーツガーデン
- ①五條市立みらいこども園
- ②五條市立ゆめこども園
- ③五條市立きぼうこども園

・スポーツクラブ葛城
- ④新庄北小学校附属幼稚園
- ⑤當麻小学校附属幼稚園
- ⑥忍海小学校附属幼稚園

・(特非)御所スポーツクラブ
- ⑦御所幼稚園
- ⑧幸町保育所
- ⑨恵愛保育所

・(一社)ﾘﾄﾙﾊﾟｲﾝ総合型地域ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ
- ⑩生駒市立中保育園
- ⑪生駒市立俵口幼稚園
- ⑫生駒市立認定こども園生駒幼稚園

・(一社)くまがしクラブ
- ⑬平群北幼稚園
- ⑭レイモンド平群こども園

取組の実施概要

①「指導者・保護者のための子どもをはぐくむ運動講座」の開催

【目　　的】

幼児期の運動遊びの意義・効果、指導方法等についてコーディネーションの視点から理解する。

【講義内容】

講義①：「運動と脳　～遊びながら鍛えよう！脳や神経系のトレーニング～」
講師：前川 真姫 氏（奈良教育大学保健体育講座准教授）
➢ 狙い：コーディネーションの科学的なアプローチからの理解促進

講義②：「保育士は見た！運動の大切さ」
講師：井上 航 氏（桜井市立第５保育所４歳児担任）
➢ 狙い：現場からの取組の紹介と意識共有

実　技：「運動を楽しむにはまず『あそび』から ～遊んで育てるこころとからだ～」
講師：西口 省三 氏（日本スポーツ協会認定アクティブチャイルドプログラム実践講師）
➢ 狙い：コーディネーションを意識した運動プログラムの実践

前川准教授のご講演の様子

井上先生のご講演の様子

西口講師の実技指導の様子

取組の成果

①「指導者・保護者のための子どもをはぐくむ運動講座」の開催

【アンケート結果（有効回答24名）】

Q.今回の講演会の各内容の満足度はどうか。

➢ 講義①：満足　**87.5%**

主な意見：・運動機能と脳のつながりを専門的な視点から聞けてよかった。
・すぐにでも活用てきるコーディネーション能力がすごく参考になった。
・実際に体を動かしてやってみることで、より理解が深まった。

➢ 講義②：満足　**83.3%**

主な意見：・現場での実戦から学ぶ事が出来てとても参考になった。
・小さな動きも、子どもには全身運動に繋がることが大変参考になった。
・大好きな先生と安心できる環境で遊ぶことが大切と感じた。

➢ 実　技：満足　**95.8%**

主な意見：・明日からの実践にすぐに活かせる内容でとても面白く分かりやすかった。
・コーディネーショントレーニングの必要性を痛感しました。
・一つ一つの動きに育ちがあることを意識し、子どもたちと遊んでいきたい。

【成　果】

➢ 今回は、主に「コーディネーション」について、**座学と実技の双方から体験**してもらうことで、指導者等にとっても、**より深い理解に繋げる**ことができた。

取組の実施概要

②「イオンモールで親子スポーツ体験会！」の実施

【目　　的】

普段、運動になじみのない子育て世代の方々に対し、子どもと一緒にスポーツを体験できる場を用意することで、体を動かすことの楽しさに気づき、運動を始めるきっかけ作りに繋げる。

【イベント概要】

内　容：ボッチャとTENNIS PLAY＆STAYの親子体験会を実施
日　時：令和６年１２月２２日（日）11:00～16:00
場　所：イオンモール奈良登美ヶ丘　３階ならとみコート
協　力：スペシャルオリンピックス日本・奈良、県テニス協会、イオンモール奈良登美ヶ丘

当日のイベント会場の様子

ボッチャ体験

TENNIS　PLAY ＆ STAY体験

取組の成果

②「イオンモールで親子スポーツ体験会！」の実施

【アンケート結果（有効回答43名）】

Q.過去6ヶ月から現在の運動実施状況はどうか？
- 運動していない　**62.8%**，定期的には運動していない　27.9%

Q.今回をきっかけに定期的な運動に取り組みたいか？
- 今まで以上に運動しようと思った　**79.1%**

Q.今回をきっかけに子どもに運動をさせようと思うか？
- 今まで以上に運動させようと思った　**74.4%**

Q.これまで子どもと一緒に身体を動かす遊びやスポーツをしているか？
- 全くしない　**34.9%**，月に１～２回程度　39.5%，週に１回程度23.3%

Q.今回をきっかけにこどもと一緒に身体を動かす遊びやスポーツをしようと思うか？
- 今まで以上に運動しようと思った　**74.4%**

参加者のほとんどが**運動未実施**

参加した70％以上の**意識変容・気付き**に繋がった。

【成　果】
- **集客力のある商業施設等**をフィールドにすることで、**運動に関心のない親子**等に対して**有効的に巻き込み・働きかけが可能**なことが確認できた。
- マイナースポーツ等の普及の観点で、本取組を**「体験の場」として活用**することも可能。
- **実際に体験**することが、親子での会話や運動遊びの**きっかけになる**ことが確認できた。

取組の実施概要

③教育・保育施設での運動の習慣化を目指した定期運動プログラムの実施

【目　　的】

子どもの多様な動きの獲得、体力向上、健康の維持・増進等に繋げるため、定期的な運動環境を整える。(R4年度の事業展開から継続した考え方を踏襲)

【内　　容】

実施概要：４回以上の連続性・継続性を確保した運動プログラムの実施
（保護者の行動変容に繋がる取組の実施を含む）
実 施 者　：総合型地域スポーツクラブ
対 象 者　：活動地域内の教育・保育施設に通う就学前児童

【昨年度との取組方法の違い】

・昨年度は、教育・保育施設において定期的な運動プログラムを実施した。
　➢ その結果、主目的である子どもに対する事業効果が認められた。
　　一例：Q.身体を動かすことが楽しいと感じる割合の増加。　72.1%　⇒　98.5%

・しかし、教育・保育施設単独で同プログラムを実施するには、施設によっては、人的・時間的な制約が伴い、同事業を県下で横展開するには一定のハードルが想定された。

・活動地域内で、運動への専門性と一定の組織力を持つ総合型地域スポーツクラブを実施主体とし、昨年度に事業効果のあった取組の**横展開力を検証**することとした。

取組の成果

③教育・保育施設での運動の習慣化を目指した定期運動プログラムの実施

【継続した運動機会の創出の取組　例】

バランスバイク

ダンス

跳び箱

竹馬

はしご渡り

平均台

サッカー

大玉ころがし

各総合型地域スポーツクラブにて子どもが楽しめる様々な運動あそびを提案＆実施

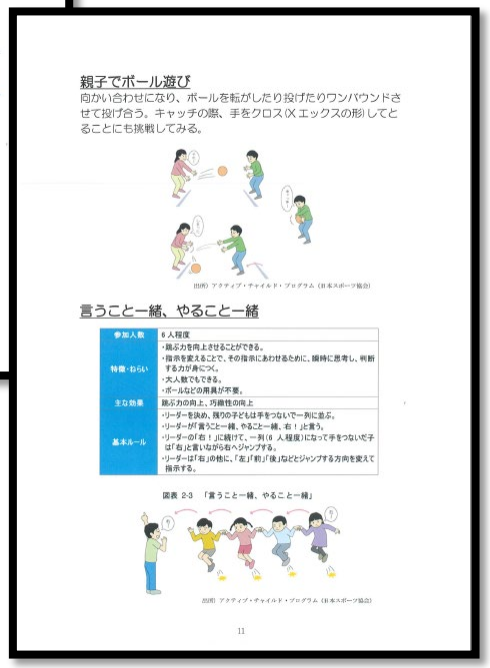
取組の成果

③教育・保育施設での運動の習慣化を目指した定期運動プログラムの実施

【保護者へのアプローチ　例】

親子参加教室の実施
例）五條市、御所市、葛城市、平群町

保護者に対して運動する意味を事前に動機付け



運動遊びについての保護者向け冊子の作成
例）五條市

保護者も一緒に運動に取り組む機会を設定

取組の成果

③教育・保育施設での運動の習慣化を目指した定期運動プログラムの実施

【感　想】

- 子ども：◇楽しかった、○○できて嬉しかった、家でもやりたい
  ◇家に帰ってお母さんに見せた
  ◇またみんなとやりたい　等
- 保護者：◇負けたくない・悔しいなどの健全な競争心が磨かれていると感じる
  ◇取組に関して親子で会話が生まれた
  ◇家族みんなで仲良く体験できるので助かる
  ◇子どもの動きに意味があると分かった　等

【成　果】

- 子ども：◇子どもの自尊心の向上
  ◇もっと運動あそびを続けたい・やってみたいという継続性の意識の向上
- 保護者：◇運動による子どもの成長へのプラスの働きに対する再認識
  ◇子どもとの日頃のコミュニケーションの向上

◇総合型地域スポーツクラブと教育・保育施設の連携は、**好意的に受け入れられており、県下における「横展開力」はあると判断**できる。
◇昨年度の取組での関係者意見と同様に好意的な意見が多かった。
- 取組内容についても、**昨年度と同程度の効果が得られた**といえる。

取組の成果

③教育・保育施設での運動の習慣化を目指した定期運動プログラムの実施

【アンケート結果】＜子どもへの効果＞

Q.最近７日間で、１日平均どれくらい体を動かして遊んだか。

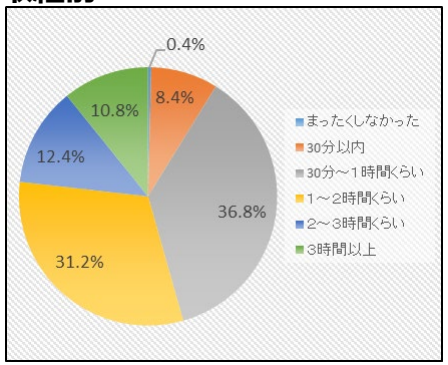
やや事業効果あり

取組前 (2.7%UP) **取組後**

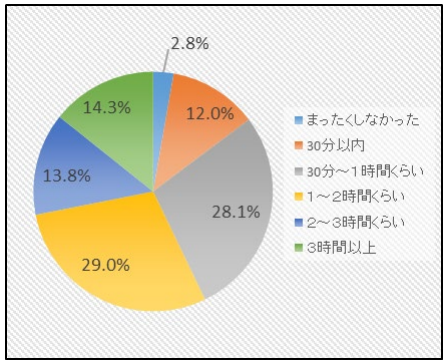
54.4%　⇒　57.1%

1日平均60分以上の割合

取組前



取組後



Q.お子様と家族が一緒に体を動かす遊びをしているか。

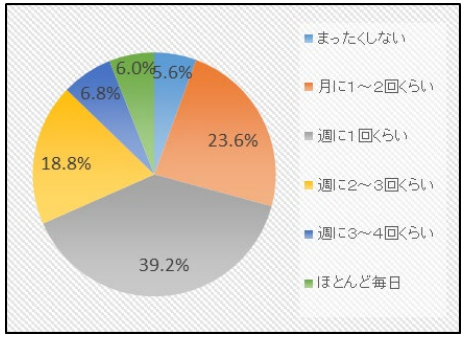
やや事業効果あり

取組前 (2.0%UP) **取組後**

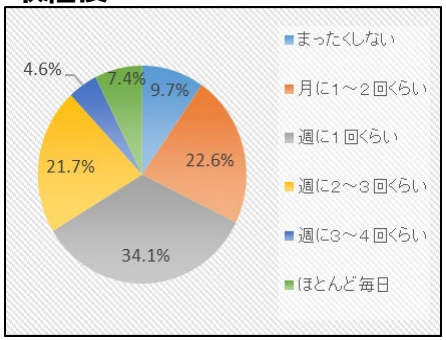
31.6%　⇒　33.6%

週に複数回以上遊ぶ割合

取組前



取組後



・アンケート調査の数値分析では、取組前後での有意差までは示しにくかったが、個別HRでは好意的な意見が多く聞かれており、一定の事業効果が推定される。

取組の成果

③教育・保育施設での運動の習慣化を目指した定期運動プログラムの実施

【アンケート結果】＜保護者への効果＞

Q.運動(※)をしようとする意欲についてどうか？

(※) 週２～３回以上、運動時間１回20分～30分以上の運動を指す。

【今後も運動をしない割合】

事業効果見られず

取組前 ほぼ変動なし (0.6%UP) **取組後**

22.4%　⇒　23.0%

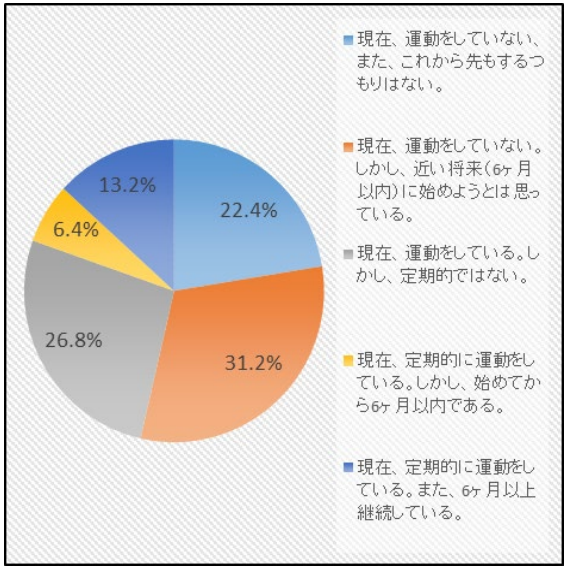
【近い将来(6ヶ月以内)に始める割合】

やや事業効果あり

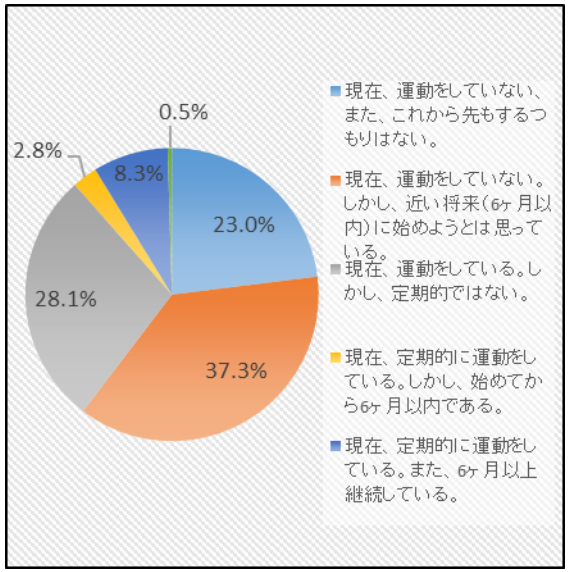
取組前 (6.1%UP) **取組後**

31.2%　⇒　37.3%

取組前



取組後



・現在、運動していない保護者が、本事業の取組に触れたことで、「近い将来運動を始める」動機の１つに寄与したと想定される。
・ただし、「今後も運動しない」と回答する者も一定数おり、運動をしない者において、運動への関心・無関心の二極化が推測される。

考察と次年度展開

【全体のまとめ】

- 指導者にとっては、**「座学」だけでなく「実技」による実体験**が重要視されるポイント。
- **集客力のある商業施設**等を**活用**しての**無関心層の取り込み**は一定の効果あり。
- 運動の習慣化を目指した定期運動プログラムの実施においては、教育・保育施設で単独実施するより、**総合型地域スポーツクラブを主体**とする方が、よりスムーズな取組実施につなげることができた。
- 昨年度の取組まとめでも感じたとおり、**子どもを巻き込む形での保護者の行動変容は有効な手段**であるが、**単発の取組では効果が薄い**点が改めて確認できた。
  いかにして**取組の継続性を担保**していくかを考えることが必要。

【次年度以降の展開】

- **総合型地域スポーツクラブを核**として、複数の地域内教育・保育施設にて一体的に事業に取り組む手法は**当初想定どおりに有効**であったため、「地域のスポーツは地域で行う」という意識醸成のためにも、次年度以降、県下にて積極的に**横展開していく**予定。
- 取組には継続性が必須と考えるため、関係機関の協力を得ながら、引き続き、奈良県として**一過性にならない形で当該事業を積極的に進めていきたい。**

ご清聴ありがとうございました。